

## 第 72 回 東葛しぜん研修会

### 新緑のブナ林で原生自然を学ぶ

草野・千葉・藤田・米澤（東葛）

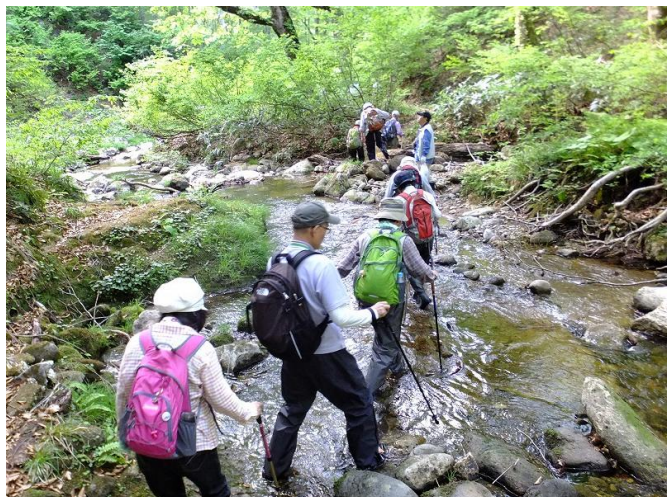
日時：2015年6月7日（日）～8日（月） 天気：晴

場所：只見町ブナ林（福島県）

参加者：指導員 26 名、お世話役：龍門・片岡

一日目：柏を出発したバスは西那須野塩原インターから、溪流に沿った新緑の道を奥会津に向かって進み、車中で只見町とブナ林についての紹介を受けました。只見町は面積の94%が森林でありそのほとんどはブナ林に代表される落葉広葉樹林で豊富な水などは1年の半分を占める降雪によるもので、我が国屈指の豪雪地帯とのことです。標高の低い森林帯にブナ林があるのは日本だけということで、これから訪れるブナ林への期待が高まりました。5時間弱で只見町布沢地区にある「森林（もり）の分校 ふざわ」に到着しました。付近は懐かしい感じのする里山で、廃校になった小学校の校舎を宿泊できる山村くらし体験施設としたところで、大きなメグスリノキと可愛らしい木造二階建ての校舎と地域の奥さん達の笑顔がみんなを迎えてくれました。搗きたての餅や山菜の郷土料理をいただいた後で、恵みの森に出発しました。森で楽しい時間を過ごした後、宿舎に帰り一息ついた後で、囲炉裏に炭火が起り、イワナが美味しそうに焼ける中で、只見町ブナセンターの館長の河原崎里子先生によるブナ林についての講義がありました。ブナは北海道から東北・関東・中部と各地方に分布していて、ブナ林の無い県は千葉と沖縄だけであり、雪の多い東北で純林が形成されているそうです。只見町のブナ林は恵の森、癒しの森、浅草岳北麓等に広がり、雪食地形の森、原生林、溪畔林、もとは天然林だった森が皆伐されてきた二次林などがあり、それらは雪が多いこと、水が豊富なこと、昔から生活のためにブナを使ってきたことなどが関係しているようです。他にはブナの一生、ブナの仲間などについて説明していただきとても勉強になりました。夜は分校の教室だった広めの部屋に枕を並べて休みました。（草野）

昼食後は「恵みの森」へ。まず「ブナの森はデリケートで、貴重な植物が多く自生しています。些細な刺激でも森全体に影響を与えます」とガイドの方が心構えを説明。いよいよ布沢川支流の溪流探勝路の散策開始です。長靴を履いて水の中をジャブジャブと。大人でも子どもに帰ったようにハイテンション状態。はしゃぎ過ぎて注意されるほどです。私はすぐにブナ天然林の美しさに心が奪われてしまいました。ブナの白い木肌、光がたっぷりと降り注ぐ明るい森がとても心地よいのです。マイマイガの幼虫がびっくりするほど多く、エゾハルゼミが鳴き交わります。アカショウビンがキョロロと鳴き、カジカガエルもそれに応えるように鳴きだします。林床の植物も多彩で感激の連続です。2時間半の予定があっという間でした。爽やかで気持ちよい緑色に癒され、ブナの森の豊かさに包まれた散策でした。（千葉）



二日目：入叶津からガイドの目黒氏の案内で山神の杉を目指した。太腿の裏側がキュッと痛む。前日の溪流歩きに続いてのガレ場がきつい。額から汗がにじむ。目を上げると直径 20cm ほどのブナ、サワグルミ、ホオノキ、トチノキが根こそぎ無残な姿をさらし、それをくぐったり、跨いだりの登りが続く。エゾハルゼミの鳴き声が真夏の森を錯覚させ、サンカヨウ、エンレイソウの大きめの葉と花、キクザキイチゲが目を楽しませ、ホオジロやツツドリの鳴き声が迎えてくれた。八十里越の標柱で小休止。維新の志士河井継之助が銃弾に負傷した体をおして只見に逃れた、との解説に登ってきた道に「信じられない」とつぶやきが漏れた。ブナ林の合間にユキツバキが赤い色を見せる。二次林から原生林帯に入ると 200 年超えのブナの巨木が目につく。やがて山神杉が見えてきた。山神杉を下るとブナ太郎、ブナ次郎との対面が叶った。どちらも 220 年を超え、ブナ太郎は大きな幹が折れ、幹はコケに覆われ、生き延びるに厳しい表情だった。ブナ次郎は木肌に触れると優しく迎えてくれたような気さえした。「花粉が風に乗るとき、木全体がブーンと音を立てる」と薜氏が紹介した由来に納得した。雪食地形では、「雪崩に削られた地肌にゼンマイが芽吹き、地元の貴重な換金作物になる」と目黒氏が教えてくれた。危険を顧みないゼンマイ採りは生活を支える。半年は雪に閉ざされ、私たちの想像を絶する厳しい生活環境がブナ林とともにあることを教えてくれるのだった。（藤田）



昼食は、旅館みな川で山菜料理とイワナを堪能して、バスは午後のプログラムに出発。まずは、ガイドの目黒氏の芍薬畑。漢方で根を採取するため、花は不要との事。急ぎよ、花を貰いに駆けつけ、一人当たり十数本の花を土産にした。因みに芍薬の根は漢方にはポピュラーで、消炎・鎮痛・止血などの作用があるとされている。次に向かったのは「ブナと川のミュージアム」。エントランスに大きなブナが迎えてくれる。前には可愛い稚樹と実が置いてあり、サイズのあまりの違いに茫然とする。昨夕、ブナの話をしてくれた、館長：河原崎氏が出迎え、セミナー室へ案内。ヒメサユリについて 30 分の小講座を開講。ヒメサユリは山形・宮城の南部・新潟と福島の間境に限られた狭い範囲で生き延びている希少種で、豪雪地帯と雪解け 1 か月後に開花、素早く成長することが特徴の日本固有のユリ。小さくピンクの花が可愛い。館内にはブナについて詳しく展示してある。特にブナの森のパノラマシアターはブナの巨木の周りにカモシカ・ニホンイタチ・アカショウビン・サワガニなど小動物が配置され、本物の森を見ているようで一見の価値がある。他に鳥・魚・昆虫の標本が展示され、特に昆虫では恵みの森と浅草岳で観察したものがどれか、興味深く見ていた。さて最後は帰りのバスの中でクイズが出題されたが、鳥の名前の読み方は難しかった。皆さんこの漢字読めますか？ 鶯・鶴・鳧。(ミサゴ、コウノトリ、ケリ)。車内はワイワイ、ガヤガヤと最後までにぎやかな研修会でした。（米澤）

